

令和7年度
学習シラバス

— 第1学年 —



鈴鹿市立神戸中学校

1年【国語】

教科の目標

言葉による見方・考え方を働かせ、言語活動を通して、国語で正確に理解し、適切に表現する資質・能力を次のとおり育成することを目指す。

- (1) 社会生活に必要な国語について、その特質を理解し適切に使うことができるようにする。
- (2) 社会生活における人との関わりの中で伝え合う力を高め、思考力や想像力を養う。
- (3) 言葉がもつ価値を認識するとともに、言語感覚を豊かにし、我が国の言語文化に関わり、国語を尊重してその能力の向上を図る態度を養う。

学習のしかた

- ・【見通しをもつ】学習課題や目標を確認し、学習の見通し（どんな方法で、どんな人と、どれだけの時間で取り組めばよいか等）をもとう。
- ・【集める・整理する】文章や資料をよく読み、課題解決に必要な情報を集めよう。また、集めた情報を内容ごとに整理しよう。このとき、わからない語句の意味について積極的に調べたり、本文を何度も読み直したりすると理解が深まります。
- ・【内容を捉える】文章の構成や登場人物の心情の変化などに注意して、内容を捉えよう。
- ・【組み立てる】自分の考えが相手にわかりやすく伝わるように、自分の考えを組み立て、意見の伝え方を工夫しよう。
- ・【伝え合う】友達や先生と自分の考えを伝え合い、自分の表現をより良いものにしよう。
- ・【振り返る】自分が学んだことや、学び方について振り返り、次の学習に生かそう。

※情報を集めたり整理したり表現したりする際には、積極的に友達や先生と考えを共有したり比べたりすることが大切です。また、これまでに習得した学習方法を利用するのも効果的な学習のしかたです。

授業で使用するもの

- ・国語の教科書
- ・ワーク「国語の学習1」
- ・漢字ワーク「漢字ノート1」
- ・ファイル（3年間同じものを使います。）
- ・書写の教科書（3年間同じものを使います。）
- ・文法ワーク「すらすら基本文法」（3年間同じものを使います。）
- ・便覧「新・国語の便覧」（3年間同じものを使います。）

*毎回の授業ですべて必要というわけではありません。

学期ごとの学習内容と学習のねらい・第1学年

	学習すること	学習のねらい
1 学 期	1 オリエンテーション	○授業の進め方を知り、目標を持って積極的に学習に取り組む。
	2 はじまりの風 (物語)	○場面の展開に沿って、登場人物の心情の変化を捉える。
	3 言葉1 音声の仕組みや働き	○音声の仕組みや働きを捉える。
	4 話の構成を工夫しよう	○自分の伝えたいことが、わかりやすく伝わるように、話の構成や表現を工夫する。
	5 漢字1 漢字の組み立てと部首	○漢字の組み立てと部首について捉える。
	6 ダイコンは大きな根? (説明)	○段落の役割に着目して、文章の内容を捉える。
	7 ちょっと立ち止まって (説明)	○文章の構成に着目し、要旨を捉える。
	8 情報を整理して説明しよう	○情報を取捨選択し、わかりやすく説明するためにまとめ方や順序を工夫する。
	9 言葉2 指示する語句と接続する語句	○指示する語句と接続する語句について捉える。
	10 空の詩三編 (詩・解説)	○詩の情景を想像し、表現の効果について考える。
	11 言葉3	○さまざまな表現技法を捉える。
	12 比喩で広がる言葉の世界 (解説)	○比喩について理解し、生活への生かし方を考える。
	13 文法への扉1 言葉のまとまり	○言葉のまとまりを捉える。
2 学 期	1 大人になれなかった弟たちに… (物語)	○登場人物の行動や風景の描写をもとに、心情を捉える。
	2 星の花が降るころに (小説)	○場面と場面、場面と描写を結び付けて、作品を解釈する。
	3 項目を立てて書こう	○相手が必要とする情報を明確に伝えるために、情報を整理し、構成を考えて書く。
	4 言葉4 方言と共通語	○方言と共通語について捉える。
	5 聞き上手になろう	○聞いたことをもとに考えをまとめ、質問の仕方を工夫する。
	6 漢字2 漢字の音訓	○漢字の音訓について捉える。
	7 「言葉」をもつ鳥、シジウカラ (記録)	○文章の構成や展開の効果について、根拠を明確にして考える。
	8 根拠を明確にして書こう	○根拠の明確さなどに対する友だちの助言をふまえ、自分の考えが伝わる文章を書く。
	9 文法への扉2 言葉の関係	○言葉の関係を捉える。
	10 大阿蘇 (詩)	○言葉の響きやリズムを味わいながら聴く。

	12 古典の世界（古典・解説）	○古典について捉える。
	13 いろは歌（古文・音読）	○古文の言葉の響きや調子に慣れる。
	14 蓬萊の玉の枝 －「竹取物語」から	○作品の内容を読み取り、古典の世界を想像する。
	15 今に生きる言葉	○故事成語について理解し、自分の生活と結び付けて考える。
	16 「不便」の価値を見つめ直す （意見）	○目的に応じて文章を要約し、筆者の主張に対して自分の意見をもつ。
	17 話題や展開をとらえて話し合おう	○話題や展開を捉えながら話し合い、互いの発言を結び付けて考えをまとめる。
	18 書写	○字開や文字の大きさ、配列などに理解し、身近な文字を楷書や行書で書く。
3 学 期	1 百人一首	○昔の歌に触れ、当時の人々の心情を捉える。
	2 少年の日の思い出（小説）	○場面の展開や表現の効果に着目し、登場人物のものの見方について考える。
	3 文法への扉3 単語の性質	○単語の性質を捉える。
	4 二十歳になった日（随筆）	○随筆の構成や表現の効果について考える。
	5 構成や描写を工夫して書こう	○伝えたい内容が読み手に効果的に伝わるよう、構成や描写を考えて書く。
	6 漢字3 漢字の成り立ち	○漢字の成り立ちを捉える。
	7 一年間の学びを振り返ろう	○情報整理の知識や方法を活用する。
	8 ぼくがここに（詩）	○詩の言葉や表現を読み味わい、作者の思いについて考える。

評価方法及び評定について

評価方法

観 点	達 成 目 標	評 価 対 象
知識・技能	<ul style="list-style-type: none"> ・ 社会生活に必要な国語の知識や技能を身に付けるとともに、我が国の言語文化に親しんだり理解したりしている。 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 定期テストの観点別問題 ・ 漢字テスト ・ 暗唱 ・ 書写 ・ ワークシート <p style="text-align: right;">等</p>
思考・判断・表現	<ul style="list-style-type: none"> ・ 論理的に考える力や深く共感したり豊かに想像したりする力を養い、社会生活における人との関わりの中で伝え合う力を高め、自分の思いや考えを広げたり深めたりすることができるようにしている。 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 定期テストの観点別問題 ・ スピーチ ・ ディスカッション ・ 読書感想文 ・ ノート ・ ワークシート <p style="text-align: right;">等</p>
主体的に学習に取り組む態度	<ul style="list-style-type: none"> ・ 言葉がもつ価値を認識するとともに、読書を通して自己を向上させ、我が国の言語文化に関わり、思いや考えを伝え合おうとする態度を養っている。 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 授業中の行動観察 ・ ノートや振り返り等の記述 ・ 課題への取り組み方 <p style="text-align: right;">等</p>

1年【社会】

教科の目標

社会的な見方・考え方を働かせ、課題を追究したり解決したりする活動を通して、広い視野に立ち、グローバル化する国際社会に主体的に生きる平和で民主的な国家及び社会の形成者に必要な公民としての資質・能力の基礎を育成することを目指す。

- (1) 我が国の国土と歴史、現代の政治、経済、国際関係等に関して理解するとともに、調査や諸資料から様々な情報を効果的に調べまとめる技能を身に付けるようにする。
- (2) 社会的事象の意味や意義、特色や相互の関連を多面的・多角的に考察したり、社会にみられる課題の解決に向けて選択・判断したりする力、思考・判断したことを説明したり、それらを基に議論したりする力を養う。
- (3) 社会的事象について、よりよい社会の実現を視野に課題を主体的に解決しようとする態度を養うとともに多面的・多角的な考察や深い理解を通して我が国の国土や歴史に対する愛情、国民主権を担う国民として、自国を愛し、その平和と繁栄を図ることや、他国や他国の文化を尊重することの大切さについての自覚などを深める。

テーマ：「防災・安全」「環境・エネルギー」「伝統文化・宗教」「人権・平和」

学習のしかた

- ・日常の授業への意欲的なくみが一番大切です。そのためにも、忘れ物をせず授業の準備をして、積極的に取り組みましょう。
- ・ほかの人の考えにしっかりと耳を傾けましょう。その際には、自分の考えと比較し、同じところや違うところを考えながら、自分の考えを再構築しましょう。
- ・自分の考えをしっかりと発信しましょう。その際には、資料や今までの学習などの根拠をもとに、理由も踏まえながらの発信に心がけましょう。
- ・定期テストについては、ワークの問題などでよく復習しましょう。
- ・プリント(ファイル)やワークについては定期的に提出をしてもらいます。提出日は予告をしますから、期限を守って計画的に取り組み、提出しましょう。
- ・プリントへは、書かれたことだけでなく、自分の気づきや学習のポイントだと考えるところを積極的に書きましょう。
- ・新聞やテレビから、社会で起こっている出来事を知り、授業で学習した内容との関連を見出すとともに、現在進行的な社会事象への関心を高めましょう。
- ・学習した内容に関連する資料を集めたり、調べものをしたりして、追究を深めましょう。

授業で使用するもの

教科書、資料集、ワーク、地図帳、プリント(ファイル)、クロムブック

学期ごとの学習内容と学習のねらい

学習すること		学習のねらい
一学期	地理 第1部 世界と日本の地域構成 第1章 世界の姿 第2章 日本の姿	<ul style="list-style-type: none">●緯度と経度、大陸と海洋の分布、主な国々の名称と位置などを基に、世界の地域構成を大観し理解する。●世界の地域構成の特色を、大陸と海洋の分布や主な国の位置、緯度や経度などに着目して多面的・多角的に考察し、表現する。●世界の地域構成について、よりよい社会の実現を視野にそこで見られる課題を主体的に追究しようとする●我が国の国土の位置、世界各地との時差、領域の範囲や変化とその特色などを基に、日本の地域構成を大観し理解する。●日本の地域構成の特色を、周辺の海洋の広がりや国土を構成する島々の位置などに着目して多面的・多角的に考察し、表現する。●日本の地域構成について、よりよい社会の実現を視野にそこで見られる課題を主体的に追究しようとする。

<p>一学期</p>	<p>地理</p>	<p>第2部 世界のさまざまな地域 第1章 人々の生活と環境</p> <p>第2章 世界の諸地域 ①アジア州 ②ヨーロッパ州</p>	<ul style="list-style-type: none"> ●人々の生活は、その生活が営まれる場所の自然及び社会的条件から影響を受けたり、その場所の自然及び社会的条件に影響を与えたりすることを理解する。 ●世界各地における人々の生活やその変容を基に、世界の人々の生活や環境の多様性を理解する。また、世界の主な宗教の分布についても理解する。 ●世界各地における人々の生活の特色やその変容の理由を、その生活が営まれる場所の自然及び社会的条件などに着目して多面的・多角的に考察し、表現する。 ●世界各地の人々の生活と環境について、よりよい社会の実現を視野にそこで見られる課題を主体的に追究しようとする。 <ul style="list-style-type: none"> ●世界各地で顕在化している地球的課題は、それが見られる地域の地域的特色の影響を受けて、現れ方が異なることを理解する。 ●アジア州・ヨーロッパ州・アフリカ州・北アメリカ州・南アメリカ州・オセアニア州の各州に暮らす人々の生活を基に、各州の地域的特色を大観し理解する。 ●アジア州・ヨーロッパ州・アフリカ州・北アメリカ州・南アメリカ州・オセアニア州の各州において、地域で見られる地球的課題の要因や影響を、州という地域の広がりや地域内の結び付きなどに着目して、それらの地域的特色と関連付けて多面的・多角的に考察し、表現する。
<p>二学期</p>	<p>地理</p> <p>歴史</p>	<p>③アフリカ州 ④北アメリカ州 ⑤南アメリカ州 ⑥オセアニア州</p> <p>第1章 歴史へのとびら 1節 歴史をとらえる見方・考え方 2節 身近な地域の歴史</p> <p>第2章 古代までの日本 1節 世界の古代文明と宗教のおこり 2節 日本列島の誕生と大陸との交流</p>	<ul style="list-style-type: none"> ●世界の諸地域について、よりよい社会の実現を視野にそこで見られる課題を主体的に追究しようとする。 <ul style="list-style-type: none"> ●年表の読み取りを通して、年代の表し方や時代区分についての基本的な意味や意義を理解する。 ●身近な地域の歴史について、自ら目標を定め、課題の解決に向けて主体的に学習する態度を身に付ける。 <ul style="list-style-type: none"> ●人類が進化してきた過程や、人類の特徴を理解する。 ●古代文明がおこった地域の特徴を考察し、表現する。 ●ギリシャ・ローマの文明が、現在のヨーロッパ文化と深く結びついていることに気付く。 ●古代の宗教のおこりについて、その概略を理解する。 <ul style="list-style-type: none"> ●縄文時代の人々の生活の様子を、考古学の成果を活用しながら具体的に理解する。 ●日本の国家が形成されていく過程のあらましを、東アジアとの関わりを通して捉える。 ●様々な資料を通して、日本と中国・朝鮮半島との交流について気付く。

三学期	歴史	3節 古代国家の歩みと東アジア世界	<ul style="list-style-type: none"> ●正倉院の宝物や地図から、中国、西アジアやインドなどの影響が見られることに気づく。 ●平安遷都の理由や意義、平安時代初めの政治の特色について理解する。 ●藤原氏が行った摂関政治の特徴について理解する。 ●代表的な事例を通して、国風化した文化の特色を理解する。
		第3章 中世の日本 1節 武士の政権の成立	<ul style="list-style-type: none"> ●武士が次第に勢力を広げたことを、都や地方で起きた戦乱の様子などから理解する。 ●荘園と公領からなる新しい土地制度の広がり、武士の成長との関連を捉える。 ●院政の特色を、摂関政治と比較して理解する。 ●将軍や執権と御家人の関係に着目して、武家政権の特色を考察し、表現する。 ●鎌倉時代の武士の生活の様子を、絵巻物や文書資料などを通して捉える。 ●代表的な事例を通して、鎌倉時代の文化の特色を理解する。
		2節 ユーラシアの動きと武士の政治の展開	<ul style="list-style-type: none"> ●モンゴル帝国の成立過程や文化について、その特徴を理解する。 ●鎌倉幕府が滅亡した理由を、モンゴルの襲来の影響や社会の変化から考察し、表現する。 ●建武の新政から南北朝の動乱に至る経過を理解する。 ●室町幕府と鎌倉幕府の仕組みを比較して、その特徴を捉える。 ●琉球や蝦夷地の人々の交流や結び付きを理解する。 ●農業や商業・手工業などが発達し、民衆の力が伸びてきたことを理解する。

評価方法及び評定について

評価方法

観 点	達 成 目 標	評 価 対 象
知識・技能	・社会的事象を理解するとともに、調査や諸資料から地理に関する様々な情報を効果的に調べている。	<ul style="list-style-type: none"> ・定期テスト、宿題テスト ・授業中の発言やレポート課題に対する取り組み
思考・判断・表現	・社会的事象を多面的・多角的に考察したり、課題解決に向けて公正に選択・判断したり、思考・判断したことを説明したり、それらを基に議論したりしている。	<ul style="list-style-type: none"> ・定期テスト ・レポート課題 ・プリントの記述 ・授業中の発言・
主体的に学習に取り組む態度	・社会的事象について、国家及び社会の担い手として、よりよい社会の実現を視野にそこで見られる課題を主体的に追究・解決しようとしている。	<ul style="list-style-type: none"> ・授業中の発言やレポート課題に対する取り組み ・グループ学習での取り組み ・ワークやファイルなどの提出 ・プリントの記述 ・授業の振り返りの記述

その他

○観点別評価から評定へ

観点別評価によって、5段階評定をつけます。ただし、観点別評価の組み合わせによって評定が2通りの場合があります。その場合は各観点の総合点により、評定を決めます。

1年【数学】

教科の目標

数学的な活動を通して、数量や図形などに関する基礎的な概念や原理・法則についての理解を深め、数学的な表現や処理の仕方を習得し、事象を数理的に考察し表現する能力を高めるとともに、数学的活動の楽しさや数学のよさを実感し、それらを活用して考えたり判断したりしようとする態度を育てる。

学習のしかた

- ・授業前に準備物を用意し、チャイム着席をする。
- ・ノートは、丁寧に見やすく書く。ポイントや注意するところをわかりやすく書く。
- ・問題に取り組むときは、答えだけでなく途中の式も書くようにする。
また、間違えた答えは消さずに残しておく。
- ・積極的に発表や質問をし、先生の説明をしっかりと聞く。
また、他の人の発表もしっかり聞き、さまざまな考え方を知る。
- ・授業を受ける前に予習をしておき、授業で習ったことは、その日のうちに復習をしておく。
- ・たくさん問題に取り組み、難しい問題にもあきらめず挑戦していく。

授業で使用するもの

教科書、ワーク、PC、ファイル、ワークシート

学期ごとの学習内容と学習のねらい

学習すること		学習のねらい
1 学 期	1章 正の数・負の数 ・正の数・負の数 ・正の数・負の数の計算 ・正の数・負の数の利用	○数の範囲を拡張して、計算の可能性をひろげ、数の処理が いっそう手際よくできるようにする。
	2章 文字の式 ・文字を使った式 ・文字式の計算 ・文字式の利用	○文字を使って、数量や数量の関係を一般的に表したり、計算 法則を簡潔に表したりすることを通して、文字を用いること のよさや必要性に気づく。また、表された式を読んだり、式 を計算したりすることを通して、文字の式を利用するための 基礎的な処理の方法を身に付ける。
2 学 期	3章 方程式 ・方程式 ・方程式の利用	○文字を含む等式から、文字の値を求める方法を理解し、これ を用いることによって、実際の問題が形式的、能率的に処理 できることを知り、さらに活用できるようにする。
	4章 変化と対応 ・関数 ・比例・反比例 ・比例、反比例の活用	○具体的な事象の中にあるともなって変わる2つの変数に注 目して、その変化や対応のようすを考察することを通して理 解を深め、活用できるようにする。
	5章 平面図形 ・直線と図形 ・移動と作図 ・円とおうぎ形	○いろいろな平面図形について、観察、操作、実験を通して、 図形に対する直観的な見方や考え方を深め、基礎的な知識・ 技能を習得して、それらを活用する能力を伸ばす。
3 学 期	6章 空間図形 ・立体と空間図形 ・立体の体積と表面積 ・空間図形の利用	○観察、操作、実験を通して、空間図形に対する直観的な見方 や考え方を深めるとともに、空間図形の性質について、論理 的に考察する能力や、立体の計量についての能力を高める。
	7章 データの活用 ・ヒストグラムと相対度数 ・データにもとづく確率	○目的に応じて資料を収集し、表やグラフに整理して、その資 料の傾向を読み取ることができるようにする。

評価方法及び評定について

評価方法

観 点	達 成 目 標	評 価 対 象
知識・技能	<ul style="list-style-type: none"> 数量や図形などについての基礎的な概念や原理・法則などを理解しているとともに、事象を数学化したり、数学的に解釈したり、数学的に表現・処理したりする技能を身に付けている。 	<ul style="list-style-type: none"> 単元テストの観点別問題 定期テストの観点別問題 ノートの記述内容 ワークシートの記述内容 <p style="text-align: right;">等</p>
思考・判断・表現	<ul style="list-style-type: none"> 数学を活用して事象を論理的に考察する力、数量や図形などの性質を見だし統合的・発展的に考察する力、数学的な表現を用いて事象を簡潔・明瞭・的確に表現する力を身に付けている。 	<ul style="list-style-type: none"> 単元テストの観点別問題 定期テストの観点別問題 ノートの記述内容 ワークシートの記述内容 <p style="text-align: right;">等</p>
主体的に学習に取り組む態度	<ul style="list-style-type: none"> 数学的活動の楽しさや数学のよさを実感して粘り強く考え、数学を生活や学習に生かそうとする態度、問題解決の過程を振り返って評価・改善しようとする態度を養っている。 	<ul style="list-style-type: none"> 単元テストの観点別問題 定期テストの観点別問題 授業中の行動観察 振り返りの記述内容 テスト反省用紙の記述内容 宿題や提出物への取組状況 <p style="text-align: right;">等</p>

その他

○観点別評価から評定へ

観点別評価をもとに、5段階評定をつけます。

1年【理科】

教科の目標

自然の事物・現象に進んで関わり、理科の見方・考え方を働かせ、見通しをもって観察・実験などを行い、科学的に探究する力と態度を養うとともに、自然の事物・事象についての理解を深め、科学的に探究するために必要な技能を身につける。

学習のしかた

- ・授業には積極的に取り組みましょう。
- ・授業ノートをきちんととり、自分なりのノートをつくりましょう。
- ・観察や実験には、真剣にのぞみ、正確かつ丁寧に、また安全に取り組みましょう。
- ・実験の予想や考察など、班での話し合いを大切にしましょう。
- ・実験・観察レポートやプリント、ワークなどの提出期限を守り、家庭での復習を大切にしましょう。
- ・疑問に感じたことはそのままにせず、友達に聞か先生に質問に来て下さい。

授業で使用するもの

教科書、ノート、資料集、ワーク、定規、chromebook

年間学習計画と学習のねらい

	学習すること	学習のねらい	
1学期	自然の中にあふれる生命	校庭や学校周辺の生物の観察を行い、いろいろな生物がさまざまな場所で生活していることを見いだして理解するとともに、観察器具の操作、観察記録のしかたなどの技能を身につける。 いろいろな生物を比較して見いだした共通点や相違点をもとにして分類できることを理解するとともに、分類のしかたの基礎を身につける。 身近な生物を観察することにより、生物に対する知識を深める。	
	いろいろな生物とその共通点	植物の特徴と分類	身近な植物の外部形態の観察を行い、その観察記録などにもとづいて、共通点や相違点があることを見いだして、植物の体の基本的なつくりを理解する。また、その共通点や相違点にもとづいて植物が分類できることを見いだして理解する。
		動物の特徴と分類	身近な動物の外部形態の観察を行い、その観察記録などにもとづいて、共通点や相違点があることを見いだして、動物の体の基本的なつくりを理解する。また、その共通点や相違点にもとづいて動物が分類できることを見いだして理解する。

		いろいろな物質とその性質	身のまわりの物質の性質をさまざまな方法で調べる実験を行い、物質には密度や加熱したときの変化など固有の性質と共通の性質があることを見いだして理解するとともに、ガスバーナーや電子てんびんなどの実験器具の操作、記録のしかたなどの技能を身につける。
2 学期	身の回りの物質	いろいろな気体とその性質	気体を発生させてその性質を調べる実験を行い、気体の種類による特性を理解するとともに、気体を発生させる方法や捕集法などの技能を身につける。
		水溶液の性質	物質が水に溶ける際の水溶液の均一性を、粒子のモデルで理解する。また、水溶液から溶質を取り出す実験を行い、その結果を溶解度と関連づけて理解する。
		物質の姿とその変化	物質の状態変化についての観察、実験を行い、状態変化によって物質の体積は変化するが質量は変化しないことを見いだして理解する。また、物質の融点や沸点を境に状態が変化することを知るとともに、混合物を加熱する実験の記録をもとに、沸点の違いによって物質の分離ができることを見いだして理解する。
		光・音・力による現象	光による現象
音による現象	音についての実験の記録をもとに、音はものが振動することによって生じること、音は波として空気中を約 340m/s の速さで伝わること、および音の大きさや高さは音源の振動のしかたに関係することを見いだす。		
力による現象	物体に力をはたらかせる実験のようすから、物体に力がはたらくとその物体が変形したり、動き始めたり、運動のようすが変わったりすることを見いだすとともに、力は大きさと向きによって表されることを理解する。また、2力のつり合いの実験を行い、1つの物体にはたらく2力がつり合う条件を見いだし理解する。		
3 学期	活きている地球	身近な大地	身近な地形などの観察の記録をもとに、大地の成り立ちなどを理解する。観察器具の基本的な扱い方などを身につける。
		ゆれる大地	地震計の記録から地震のゆれの特徴を理解し、記録の分析により地震のゆれの伝わり方の規則性を見いだす。また、地震の原因などをプレートの動きと関連づけて理解する。
		火をふく大地	さまざまな火山の活動などを調べ、それらのようすはマグマの性質が深く関係していることを考察するとともに、マグマからできる火成岩の特徴を、成因と関連づけて理解する。
		語る大地	地層の重なり方や広がり方の規則性を捉え、構成する岩石や化石をもとに、地層が堆積した時代や当時の環境を推測することを通じて、地層の成り方を理解する。また、プレートと火山活動や地震などとの関連を総合的に捉え、大地からの恵みや災害について理解する。

評価方法及び評定について

評価方法

観 点	達 成 目 標	評 価 対 象
知識・技能	・自然の事物・現象についての基本的な概念や原理・法則などを理解しているとともに、科学的に探究するために必要な観察、実験などに関する基本操作や記録などの基本的な技能を身につける。	・定期テスト （中間・期末・学年末） ・授業中に行う各種テスト ・実験・観察レポート ・自由研究
思考・判断・表現	・自然の事物・現象から問題を見だし、見通しをもって観察、実験などを行い、得られた結果を分析して解釈し、表現するなど、科学的に探究する。	・定期テスト （中間・期末・学年末） ・授業中に行う各種テスト ・実験・観察レポート ・授業での発表内容 ・自由研究
主体的に学習に取り組む態度	・自然の事物・現象に進んで関わり、見通しをもったり、振り返ったりするなど、科学的に探究しようとする。	・ノート、ワーク、プリントの取り組み状況 ・活動の様子 ・自由研究 ・授業中に行う各種テスト

その他

○観点別評価から評定へ

観点別評価によって、5段階評定をつけます。ただし、観点別評価の組み合わせによって評定が2通りの場合があります。その場合は各観点の総合点により、評定を決めます。

りかしつ つか かた 理科室の使い方



りかしつ はい 理科室に入ったら…

- ・席は決められた場所に座りましょう。
- ・走り回ったり、遊ぶことがないようにしましょう。

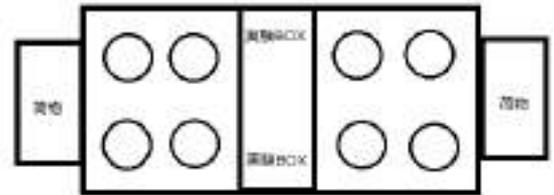
じゅぎょうかいし 授業開始！

- ・安全に実験をおこなうためにも、先生の指示をきちんと聞きましょう。
(危険な薬品を使用する場合があります。)

- ・理科準備室は生徒立ち入り禁止です。

じっけんじ 実験時…

- ・実験開始前にぬれた雑巾を準備しましょう。
- ・実験めがね等着用する場合は、きちんと着用しましょう。
- ・実験機の上は必要最低限のものだけにし、
実験機横のロッカーに荷物を置きましょう。
- ・実験BOXは水道の上に置きましょう。
- ・実験中は原則イスを実験機の下にしまい、
立って行いましょう。
- ・実験器具は大切に使いましょう。
万が一、実験器具を破損した場合やケガをしてしまった場合は、
速やかに先生に報告しましょう。
- ・班で協力して取り組みましょう。



じっけんしゅうりょう 実験終了！

- ・片づけは先生の指示に従いましょう。
実験器具を洗う場合はきちんと洗浄しましょう。
- ・次のクラスが気持ちよく使えるように実験機はきれいにして帰りましょう。

※ルールを守れない人がいた場合、実験ができなくなってしまう場合もあります。
みんなで安全に実験ができるよう協力して頑張りましょう！

1年【音楽】

教科の目標

- (1) 曲想と音楽の構造などとの関わり及び音楽の多様性について理解するとともに、創意工夫を生かした音楽表現をするために必要な歌唱、器楽、創作の技能を身に付ける。
- (2) 音楽表現を創意工夫することや、音楽を自分なりに評価しながらよさや美しさを味わって聴くことができる。
- (3) 主体的・協働的に表現及び鑑賞の学習に取り組み、音楽活動の楽しさを体験することを通して、音楽文化に親しむとともに、音楽によって生活を明るく豊かなものにしていく態度を養う。

学習のしかた

- ・ 授業前に準備物を確認し、チャイム着席をする。
- ・ 【本時のめあて】を確認し、目標をもって授業に取り組む。
- ・ 個人の活動、グループ練習、全体練習などは、目的意識を持って積極的に取り組む。
- ・ 自分のイメージや思いを仲間に自信を持って伝えたり、仲間の意見もしっかりと聴いたり良さや違いを認め合う。
- ・ 振り返りシートに【本時のめあて】が達成されたか、何を学ぶことができたか等を記入する。
- ・ 自分が使用した机やイスは整頓してから教室に戻る。イスは必ず上にあげて、イスの靴下を4つはめる。

授業で使用するもの

- ・ 1年音楽の教科書
- ・ 器楽の教科書
- ・ コーラスフェスティバル
- ・ 音楽ファイル
- ・ 筆記用具

年間学習計画と学習のねらい

	学習すること	学習のねらい
1 学 期	<p>*オリエンテーション</p> <p>*発声法、歌唱のポイント</p> <p>1. 歌唱「校歌」</p> <p>2. 歌唱「We'll Find The Way」</p> <p>3. 創作「リズムチャレンジ」</p> <p>4. 鑑賞「春―第1楽章―」</p> <p>5. 合唱コンクールへの取り組み 学年合唱曲 クラス曲</p>	<p>○授業を受けるためのルールや目標等を理解し、音楽室の使い方を知る。</p> <p>○歌唱に必要な呼吸法や発声法を身に付ける。</p> <p>○神戸中学校の一員としての自覚を持ち、新しい仲間と共に歌唱する。</p> <p>○曲想と音楽の構造や歌詞の内容との関りについて理解し、歌唱表現を創意工夫して歌う。</p> <p>○音のつながり方の特徴について理解し、創意工夫して音楽を作る。</p> <p>○音楽の特徴に注目しながら、情景を思い浮かべて聴く。</p> <p>○クラス全員が合唱曲と向き合い、作り上げていく中で、頑張っている仲間を認め協力しながら、試行錯誤を繰り返し、曲を完成させる充実感や達成感を味わう。</p>
2 学 期	<p>6. 合唱コンクールへの取り組み 学年合唱曲 クラス曲</p> <p>7. 鑑賞「魔王」</p> <p>8. 歌唱「赤とんぼ」</p> <p>9. 歌唱「君をのせて」</p>	<p>○歌詞や旋律にふさわしい表現を工夫し、指揮やピアノに合わせて豊かに歌う</p> <p>○曲想と音楽の特徴との関りを感じ取って聴く。</p> <p>○情景を思い浮かべながら思いを込めて歌う。</p> <p>○作曲者の意図を理解し、音楽を形作っている要素と関連させながら歌唱する。</p>
3 学 期	<p>10. 鑑賞「六段の調」</p> <p>11. 器楽 箏に親しむ</p> <p>12. 創作</p> <p>13. まとめ</p>	<p>○日本に古くから伝わる箏の音楽を聴く。</p> <p>○和楽器に実際に触れ、響きの魅力を感じる。</p> <p>○自分がイメージしたものを、音楽を形作っている要素と関連させながら作曲する。</p>

評価方法及び評定について

評価方法…3 観点を ABC で表し、1～5の評定をつけます。

観 点	達 成 目 標	評 価 対 象
<p>知識・技能</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 曲想と音楽の構造などとの関わり及び音楽の多様性について理解している。 ・ 創意を生かした音楽表現をするために必要な技能を身に付け、歌唱、器楽、創作で表している。 	<p>曲想と音楽の構造などとの関わり及び音楽の多様性について理解するとともに、創意工夫を生かした音楽表現をするために必要な歌唱、器楽、創作の技能を身に付けるようにする。</p>	<p>活動の様子 歌唱・演奏の様子 鑑賞の様子 定期テスト 実技テスト 各種プリントの内容や感想文 振り返りシート</p>
<p>思考・判断・表現</p> <p>音楽を形づくっている要素や要素同士の関連を知覚し、それらの働きが生み出す特質や雰囲気を感じながら、知覚したことと感受したこととの関わりについて考え、どのように表すかについて思いや意図をもったり、音楽を自分なりに評価しながらよさや美しさを味わって聴いたりしている。</p>	<p>音楽表現を創意工夫することや、音楽を自分なりに評価しながらよさや美しさを味わって聴くことができるようにする。</p>	
<p>主体的に学習に取り組む態度</p> <p>音や音楽、音楽文化に親しむことができるよう、音楽活動を楽しみながら主体的・協働的に表現及び鑑賞の学習活動に取り組もうとしている。</p>	<p>主体的・協働的に表現及び鑑賞の学習に取り組み、音楽活動の楽しさを体験することを通して、音楽文化に親しむとともに、音楽によって生活を明るく豊かなものにしていく態度を養う。</p>	

1年 【美術】

教科の目標

表現や鑑賞などの幅広い活動を通して、造形的な見方・考え方を働かせて、生活や社会の中の美術や美術文化と豊かに関わる資質・能力を育成することを目指す。

- (1) 形や色彩、材料、光の性質など、ものごとをとらえるときの視点について理解する。表現方法を創意工夫し、創造的に表すことができるようにする。
- (2) 作品のよさや美しさ、表現の意図や工夫などについて考え、作品に生かすことができるようにする。豊かに発想して作品のアイデアを練ったり、美術や美術文化に対する見方や感じ方を深めたりすることができるようにする。
- (3) 楽しく創造活動にとりくみ、美術を愛好する心情を育て、感性を豊かにし、心豊かな生活を創造していく態度を養う。表現や鑑賞の幅広い活動を通して美術の創造的活動の喜びを味わい、美術を愛好する心情を育てるとともに感性を豊かにし、美術の基礎的能力を伸ばし、豊かな情操を養う。

学習のしかた

- ・ 準備物を確認し、チャイム着席で授業にのぞむ。
- ・ 私語を慎み、集中して制作に取り組む。
- ・ 本時のめあてや制作のポイントを的確に把握し、課題に対して主体的に取り組む。
- ・ 創作活動を振り返り、今後の創作に生かせるようにする。
- ・ 他者の意見や作品を参考にしながら創意工夫して、作品を制作する。
- ・ 技法や用具などの基本的知識を理解し、自分なりの表現方法を創意工夫する。
- ・ 美術資料集などで知識や技能を幅広く身につけ、多様な表現や発想ができるようにする。
- ・ 作品に対しての自分たちの意見を伝え合いながら、協力して学習に取り組む。

授業で使用するもの

教科書 資料集 スケッチブック レタリング字典 鉛筆 ファイル
※デザインセット ※色鉛筆

※については、課題に応じて準備する。

年間学習計画と学習のねらい

題材		学習すること
1学期	1 ガイダンス	<input type="checkbox"/> 美術の授業における「ルール」や「心構え」を知る。
	2 クロッキー	<input type="checkbox"/> 物や人の形を捉えて、表現する。
	3 絵具	<input type="checkbox"/> 絵具の使い方や色の作り方を理解する。 <input type="checkbox"/> 平塗りの方法や絵具と筆を使った線の描き方を学ぶ。
	4 レタリング	<input type="checkbox"/> 文字デザインの基礎的技法を学び、これからの作品に生かせるようにする。 <input type="checkbox"/> 明朝体・ゴシック体の特徴をとらえ、文字としての美しさを理解する。
2学期	1 色彩	<input type="checkbox"/> 色彩についての基礎的な内容を体系的に理解し、身の回りの色彩に興味や関心を持つとともに、これからの学習にいかせるようにする。
	2 デザイン (絵文字)	<input type="checkbox"/> 文字が持つ意味やイメージを強く表現するために、色や形を工夫する。 <input type="checkbox"/> 平塗りで美しい画面をつくる。 <input type="checkbox"/> 漢字からイメージするものを絵として組み合わせる。
	3 鑑賞	<input type="checkbox"/> 作品を鑑賞し、自分の感じたこと、考えたことを説明する。
3学期	1 粘土 (仮面)	<input type="checkbox"/> 色彩の基本的な知識を活用し、配色を工夫した作品作りを行う。 <input type="checkbox"/> 粘土の特性を生かし、表現に応じて工夫する。 <input type="checkbox"/> 自分の考えや感情を色や形に置き換えて表現する。
	2 鑑賞	<input type="checkbox"/> 過去の作家の作品の鑑賞を通して、美術の見方・考え方を広げる。

評価方法及び評定について

評価方法

観 点	達 成 目 標	評 価 対 象
知識・技能	<ul style="list-style-type: none"> ・ 形や色彩、材料、光などの性質や、さまざまな技法や用語など造形的な視点について理解できているか。意図に応じて、身につけた表現方法を十分に活用し表現できているか。 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 作品（制作過程含む） ・ 定期テストの観点別問題 ・ ワークシート等
思考・判断・表現	<ul style="list-style-type: none"> ・ これまでに学んだことについて独創的・総合的に考え、工夫して、作品に生かすことができているか。作品についての主題を豊かに発想し、構想を練ることができているか。美術文化に触れたり、美術作品などを鑑賞したりすることで、作品についての見方・考え方を深めることができたか。 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 作品（制作過程含む） ・ 定期テストの観点別問題 ・ 鑑賞の発言や記述 ・ ワークシート等
主体的に学習に取り組む態度	<ul style="list-style-type: none"> ・ 美術について主体的に関わる姿勢を持ち、授業に取り組むことができているか。表現、鑑賞活動の制作過程において、よりよい作品を制作しようと調整や工夫をおこなおうとしているか。お互いの個性を生かしあい、協力して制作できているか。 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 授業中の発言・行動 ・ ワークシートや振り返りの記述 ・ 表現や鑑賞への取り組み方

1年 【保健体育】

教科の目標

体育や保健の見方・考え方を働かせ、課題を発見し、合理的な解決に向けた学習過程を通して、心と体を一体として捉え、生涯にわたって心身の健康を保持増進し豊かなスポーツライフを実現するための資質・能力を次の通り育成することを目指す。

- (1) 各種の運動の特性に応じた技能等及び個人生活における健康・安全について理解するとともに、基本的な技能を身に付けるようにする。
- (2) 運動や健康についての自他の課題を発見し、合理的な解決に向けて思考し判断するとともに、他者に伝える力を養う。
- (3) 生涯にわたって運動に親しむとともに健康の保持増進と体力の向上を目指し、明るく豊かな生活を営む態度を育てる。

学習のしかた

- 時間を守る。
 - 集合・整列を素早く行う。
 - あいさつをきちんと行う。
 - 服装をきちんと整える。
 - 安全に気を配って活動する。
 - 運動を積極的に行う。
 - 技を工夫し、練習する。
 - 自己の能力に合った技を正確に行う。
 - 基本的技能を理解する。
 - ルールや試合の運営方法を学び、ゲームに親しむ。
 - 日頃から健康管理を心がけ、日々の授業に集中できるようにする。
- 「事故や怪我などを防止するために」

 - ・事故や怪我などを防止するために、授業の前に自己の健康状態を確認しよう。
 - ・練習や試合をするにあたっては、自己の健康状態や体力を十分理解し、施設・用具等の安全を確かめよう。
 - ・運動の難易度や自己の技能の程度を知ってから行いましょう。

授業で使用するもの

体操服、運動靴、体育館シューズ、中学保健体育、中学体育実技、保健学習ノート、ファイル

年間学習計画と学習のねらい

	学習する内容	学習のねらい
1 学期	<ul style="list-style-type: none"> ○集団行動 ○体づくり運動 ○新体力テスト ○陸上競技（短距離走・リレー） ○器械運動（マット運動） ○水泳 ○体育理論 ○保健 【心身の機能の発達と心の健康】 	<ul style="list-style-type: none"> ・集団として必要な行動の仕方を身に付け、能率的で安全な集団としての行動ができるようにする。 ・自己の体力や生活に応じて、体の調子を整えるなどの体ほぐしや体力の向上をねらいとする。 ・運動をする時には、自己の体力と適性を知ることが必要である。従って、自己の体力の現状を正しく理解する。 ・最大のスピードを高め、ある特定の距離を相手より速く走ることや記録を高める。 ・バトンを渡す者と受け取る者が、共にスピードに乗った状態で受け渡しができるようにする。 ・今もっている技能を把握し、新しい技にチャレンジしていく。 ・技ができる楽しさや喜びを味わう。 ・できる泳法で時間や距離に挑戦したり、新しい泳法に挑戦したりする。また、個人やチームで競争する。 ・運動やスポーツの合理的な実践を通して、運動やスポーツへの多様な関わり方を身につける。（※） ・身体の各器官は年齢とともに発達し、発達する時期に違いがあること、個人差や性差があることを理解する。
2 学期	<ul style="list-style-type: none"> ○球技（ベースボール型） ○武道（剣道） ○陸上競技（長距離走） ○体育理論 ○保健 【心身の機能の発達と心の健康】 	<ul style="list-style-type: none"> ・ベースボール型では、バット操作やボール操作など基本的な技能を身につける。 ・相手の動きの変化に応じた基本動作や基本となる技を用いて、相手の構えを崩し、しかけたり応じたりするなどの攻防をすることができる。 ・ある特定の長い距離を速く走り通し、記録の向上をねらったり競争したりする。 ・（※）と同じ。 ・異性の尊重、性情報への対処など性に関する適切な態度や行動を理解し身につける。 ・心の健康を保つには、欲求やストレスについて知り、適切に対処することが大切であることを理解する。
3 学期	<ul style="list-style-type: none"> ○球技（ネット型・ゴール型） ○体育理論 ○保健【健康な生活と病気の予防】 	<ul style="list-style-type: none"> ・個人的技能に応じて、ルールの扱い等について工夫し、ラリーを続け、ゲームができるようにする。 ・今もっている技能を活用してゲームを行い、味方同士が協力し作戦を立ててゲームができるようにする。 ・（※）と同じ。 ・健康は主体と環境の相互作用の下に成り立っていること、さらに疾病は主体的の要因と環境の要因が関わりあって発生することを理解する

※年間を通して、各単元で「体育理論」を行う。

※他学年との場所の調整や学校行事・天候等により、上記にあげた種目を変更する場合があります。

評価方法及び評定について

評価方法

観 点	達 成 目 標	評 価 対 象
知識・技能	<p>運動の合理的な実践に関する具体的な事項及び生涯にわたって運動に親しむための理論について理解している。</p> <p>個人生活における健康・安全について、課題の解決に役立つ基礎的な事項を理解している。</p> <p>運動の合理的な実践を通して、運動の特性に応じた基本的な技能を身につけている。</p>	<p>授業での発言及び内容</p> <p>定期考査</p> <p>行動観察</p> <p>実技テスト</p>
思考・判断・表現	<p>生涯にわたって運動に親しむことを目指して、学習課題に応じた取り組み方や健康の保持及び体力を高めるための運動の組み合わせ方を工夫している。</p> <p>個人生活における健康・安全について、課題の解決を目指して考え、判断し、それらを表している。</p>	<p>行動観察</p> <p>授業での発言及び内容</p> <p>自己評価・学習カード</p> <p>見学者レポート</p> <p>定期考査</p>
主体的に運動に取り組む態度	<p>個人生活における健康・安全について、課題の解決に役立つ基礎的な事項を理解している。運動の楽しさや喜びを味わうことができるよう、運動の合理的な実践に積極的に取り組もうとする。</p> <p>個人生活における健康・安全について関心を持ち、意欲的に学習に取り組もうとする。</p>	<p>行動観察</p> <p>授業での発言及び内容</p> <p>自己評価・学習カード</p> <p>見学者レポート</p>

1年 【技術・家庭科】

教科の目標

生活の営みに係る見方・考え方や技術の見方・考え方を働かせ、生活や技術に関する実践的・体験的な活動を通して、よりよい生活の実現や持続可能な社会の構築に向けて、生活を工夫し創造する資質・能力を目指す。

<技術分野>

- 1) 生活や社会で利用されている材料、加工、生物育成、エネルギー変換及び情報の技術についての基礎的な理解を図るとともに、それらに係る技能を身に付け、技術と生活や社会、環境との関わりについて理解を深める。
- 2) 生活や社会の中から技術に関わる問題を見いだして課題を設定し、解決策を構想し、製作図等に表現し、試作等を通じて具体化し、実践を評価・改善するなど、課題を解決する力を養う。
- 3) よりよい生活の実現や持続可能な社会の構築に向けて、適切かつ誠実に技術を工夫し創造しようとする実践的な態度を養う。

<家庭分野>

- 1) 家族、家庭の機能について理解を深め、家族・家庭で、衣食住、消費や環境などについて、生活の自立に必要な基礎的な理解を図るとともに、それらに係る技能を身に付けけるようにする。
- 2) 家族・家庭や地域における生活の中から問題を見いだして課題を設定し、解決策を構想し、実践を評価・改善し、考察したことを論理的に表現するなど、これからの生活を展望して課題を解決する力を養う。
- 3) 自分と家族・家庭生活と地域とのかかわりを考え、家族や地域の人々と協働し、よりよい生活の実現に向けて、生活を工夫し創造しようとする実践的な態度を養う。

学習のしかた

- ・授業の準備物をチャイムが鳴るまでに用意して着席しておく。
- ・人の話をしっかり聴いてさまざまな見方・考え方を知り、授業に主体的に取り組む。
- ・学習プリントやワークの記入・課題の取り組みをしっかりと行い、期日を厳守する。(×切厳守)
- ・実習や作業の時は、指示のあった服装で取り組み、準備物は忘れない。
- ・作業内容をよく理解し、周りの人と協力しあい、正確で丁寧な作業に心がける。
- ・安全に留意し道具や工具、機器を適切に使用し、自分勝手な行動をしない。
- ・与えられた課題に対し、しっかり取り組む。

授業で使用するもの

- ・教科書(ハンドブック) ・ファイル ・学習プリント(ワークシート)
- ・技術実習時: 体操服で行ないます。
- ・調理実習時: エプロン、マスク、(三角巾)、ふきん、手拭タオルなど。
- ・教科書とファイルは3年間使用するので紛失しないこと。

年間学習計画と学習のねらい

	学 習 す る こ と	学 習 の ね ら い
1 学 期	≪情報の技術≫ ○身の回りの情報の技術 ○コンピュータの仕組み ○情報のデジタル化 ○情報通信ネットワークの仕組み ○情報セキュリティの仕組み ○情報モラル	≪情報の技術≫ ・生活や社会を支えている情報の技術を知る。 ・コンピュータの仕組みと基本の機能を理解する。 ・情報をデジタル化する仕組みを理解する。 ・情報をデジタル化する方法とデータ量との関係を理解する。 ・情報通信ネットワークの仕組みについて理解する。 ・情報セキュリティの基本的な知識について理解する。 ・情報の安全を確保するために必要な判断や対応ができる。 ・情報技術の特性を理解して、安全によりよく利用することができる。 ・情報が社会に与える影響を理解して、望ましい情報社会のためにとるべき態度を身につける。
2 学 期	≪材料と加工の技術≫ ○身の回りの材料と加工の技術 ○材料の特性と加工方法 ○丈夫な製品を作る工夫 ○問題の発見と課題の設定 ○解決策の構想（1）製図 ○解決策の構想（2）製作計画 ○作業手順を考えた製作 ○問題解決の評価・改善・修正	≪材料と加工の技術≫ ・生活や社会を支えている材料と加工の技術を知る。 ・身の回りの製品の材料と加工について調べ、まとめることができる。 ・材料の特性と加工方法について理解する。 ・丈夫な製品を作るための技術の工夫について理解する。 ・材料と加工の技術の問題解決の工夫を読み取り、技術の見方・考え方に気づくことができる。 ・技術の見方・考え方を働かせて、材料と加工の技術に関わる問題を見だし、課題を設定することができる。 ・製作に必要な図の描き方を理解し、図に表すことができる。 ・材料や加工方法などを検討して、設計を具体化することができる。 ・設計に基づいて制作の計画を立てることができる。 ・安全で適切な製作や検査・修正ができる。 ・製作の過程について考えることができる。 ・材料を加工の技術の最適化について考えることができる。 ・これからの材料と加工の技術について考えることができる。
3 学 期	○材料と加工の技術の最適化 ○これからの材料と加工の技術	・材料や加工方法などを検討して、設計を具体化することができる。 ・設計に基づいて制作の計画を立てることができる。 ・安全で適切な製作や検査・修正ができる。 ・製作の過程について考えることができる。 ・材料を加工の技術の最適化について考えることができる。 ・これからの材料と加工の技術について考えることができる。

年間学習計画と学習のねらい

	学習すること	学習のねらい
1 学 期	<p><健康と食生活></p> <p>○家庭分野の学習を始めよう</p> <p>○食事の役割を考えよう</p> <p>○栄養素の種類と働きを知ろう</p> <p>○何をどのくらい食べればいいのか考えよう</p> <ul style="list-style-type: none"> ・中学生の1日分の献立 ・食品群別摂取量のめやす 	<ul style="list-style-type: none"> ・今までの学習を振り返り、3年間の学習内容を知る。 ・生活の中で食事が果たす役割や、健康と食事のかわりについて知る。 ・栄養素の種類と働きを知り、中学生の時期に必要な栄養素の特徴について知る。 ・6つの食品群と食品群別摂取量のめやすを理解する。 ・中学生の一日分の献立作成の方法について理解する。
2 学 期	<p>○食品の選び方を考えよう</p> <p>○調理と食文化</p> <ul style="list-style-type: none"> ・調理室の扱い ・実習の進め方 ・調理実習 <p>○食生活の課題と実践</p> <p><私たちの衣生活></p> <p>○衣服のはたらき</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・食品の品質を見分け、用途に応じて適切に選択することができる。 ・食品の表示の見方を理解する。 ・食品の安全性について関心を持ち、健康に配慮して食品を選ぶことができる。 ・日常食の調理に関心を持ち、調理の流れと手順を理解し、調理計画を立てることができる。 ・食品や調理器具等の安全と衛生に留意した管理について理解し、適切な取り扱いができる。 ・簡単な日常食の調理ができる。 ・地域の食文化を理解し、地域の食材を用いた和食の調理が適切にできる。 ・自分の食生活を見渡して課題を設定する。 ・興味関心を持ち改善して次の課題へ発展させる。 ・衣服のはたらきを理解する。
3 学 期	<p>○必要な衣服を選択しよう</p> <p>○衣服の手入れをしよう</p> <p>○衣生活の課題と実践</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・衣服と社会生活とのかかわりを考え、目的に応じた着用や個性をいかす着用を工夫することができる。 ・衣服の手入れに必要な方法を理解する。 ・自分の衣生活を見渡し課題を設定する。 ・興味関心を持ち改善して次の課題へ発展させる。

評価方法及び評定について

評価方法

観 点	達 成 目 標	評 価 対 象
知識・ 技能	<p>生活や社会で利用されている材料、加工、生物育成、エネルギー変換及び情報の技術についての基礎的な理解を図るとともに、それらに係る技能を身に付け、技術と生活や社会、環境との関わりについて理解を深めている。</p> <p>衣食住や家族の生活、消費生活などについて、生活の自立に必要な基礎的・基本的な機能について理解をして、適切な選択や用具の安全な取り扱い、適切な製作ができる技能が身に付いている。</p>	<p>○定期テスト</p> <p>○実習への取り組み方</p> <ul style="list-style-type: none"> ・実習作業の様子 ・作品の精度 <p>○学習プリントの内容</p>
思考・ 判断・ 表現	<p>生活や社会の中から技術に関わる問題を見いだし、課題を設定し、解決策を構想し、製作図等に表現し、試作等を通じて具体化し、実践を評価・改善するなど、課題を解決する力を身に付けている。</p> <p>衣食住や家族の生活、消費生活などについて、これからの生活を展望し、家族・家庭や地域の生活の中から問題を見い出して課題を設定し、解決策を構想し、考察したことを論理的に表現するなどして課題を解決する力を身に付けている</p>	<p>○学習プリントの内容</p> <p>○実習への取り組み方</p> <p>○定期テスト</p>
主体的に 学習に取り 組む態度	<p>主体的に材料、加工、生物育成、エネルギー変換及び情報の技術について考え、理解しようとしている。また、よりよい生活の実現や持続可能な社会の構築に向けて、適切かつ誠実に技術を工夫し、創造しようとしている。</p> <p>衣食住や家族の生活、消費生活などについて、家族や地域の人々と協働し、よりよい生活の実現に向けて、課題の解決に主体的に取り組んだり、振り返って改善したりして、生活を工夫し創造し、実践しようとしている。</p>	<p>○学習プリントの内容</p> <p>○学習プリントや宿題の提出・整理状況</p> <p>○授業の準備</p> <p>○授業態度・発表内容</p> <p>○実習への取り組み方</p> <p>○定期テスト</p>

その他

観点別評価は、技術分野での評価と家庭分野での評価を合わせ、総合的に評価します。
 評価は評価表に基づいてつけます。観点により、比重が異なることがあります。

1年【英語】

教科の目標

- (1) 外国語の音声や語彙、表現、文法、言語の働きなどを理解するとともに、これらの知識を、聞くこと、読むこと、話すこと、書くことによる実際のコミュニケーションにおいて活用できる技能を身に付けるようにする。
- (2) コミュニケーションを行う目的や場面、状況などに応じて、日常的な話題や社会的な話題について、外国語で簡単な情報や考えなどを理解したり、これらを活用して表現したり伝え合ったりすることができる力を養う。
- (3) 外国語の背景にある文化に対する理解を深め、聞き手、読み手、話し手、書き手に配慮しながら、主体的に外国語を用いてコミュニケーションを図ろうとする態度を養う。

学習のしかた

- ・積極的に発表や質問をし、先生の説明をしっかりと聞く。また、他の人の発表もしっかり聞き、さまざまな考え方を知る。
- ・授業中のペアワークやグループ活動に積極的に取り組む。
- ・ノートやワークシート等は、丁寧に見やすく書く。ポイントや注意するところをわかりやすく書く。
- ・粘り強く課題に取り組み、新出事項を覚えるようにする。

授業で使用するもの

教科書、ノート、ワークセット、ファイル、chromebook

年間学習計画と学習のねらい

	学習すること	学習のねらい
1学期 (小学校との接続内容)	<ul style="list-style-type: none"> ・ 場面の表現 ・ 英語の音と文字 ・ be 動詞 ・ 一般動詞 ・ can の文 ・ 疑問詞 ・ 命令文 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 小学校で学習したことをふまえ、その内容を復習する。 ・ 自分のことを伝えたり、相手のことをたずねたりすることができる。 ・ 身近な人やものについて紹介したり、たずねたりすることができる。 ・ 知らないものや人についてたずねたり、いつ・どこなのかをたずねたりすることができる。 ・ 数や時刻、好きなものについてたずねたり、指示や助言をしたりすることができる。
2学期	<ul style="list-style-type: none"> ・ 3人称単数現在形 ・ 人称代名詞の目的格 ・ Can I...? Can you...? ・ 現在進行形 ・ want to ... / look ... 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 自分と相手以外の人やものについて、たずねたり伝えたりすることができる。 ・ 自分と相手以外の人について話したり、どちらなのか、だれのものかをたずねたりすることができる。 ・ 身近な人に許可を求めたり、依頼したりすることができる ・ 今していることについて説明したり、たずねたりすることができる。 ・ したいことや、する必要のあることなどについて説明したり、たずねたりすることができる。
3学期	<ul style="list-style-type: none"> ・ 一般動詞/be 動詞の過去形 ・ 過去進行形 ・ There is (are)... 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 過去の出来事について説明したり、たずねたりすることができる。 ・ 過去の状態や気持ち、過去のある時点にしていたことについて説明することができる。

授業の受け方





やす じかん 休み時間のうちに・・・

つぎ じゆぎょう じゆんび
★次の授業の準備をしよう！

やす じかん 休み時間のうちに次の授業の準備をしましょう。

きょうしついどう ばあい すみ いどう
教室移動がある場合は、速やかに移動しておきます。トラブルのもとになるので、
わす 物 ひと か 忘れ物をして人に借りないようにしましょう。じゆぎょう はじ 授業が始まってからロッカーへ用意
と い とうい わす 取りに行くのもNG。もし、用意を忘れてしまったときは、担当の先生から許可を得て、
ほか ひと ま 他人を待たせないように急いで準備しましょう。



な チャイムが鳴ったら・・・

★あいさつをしよう！

じゆぎょう せんせい みな いっしょ きょうりよく あ
授業は先生と皆さんと一緒に作るものです。協力し合う
せんせい なかま たい じゆぎょう はじ お 先生と仲間に対して、授業の始まりと終わりにはしっかり声を
だ 出してあいさつしましょう。

あいさつのときは、つくえ みぎがわ いっぽ で
机の右側に一歩出ます。



じゆぎょうちゆう 授業中は・・・ 主体的に学ぼう！

しゆたいてき まな ちから み
主体的な学びで、どんな力が身につくの？

しゆたいてき まな した ちから み
主体的な学びでは、下のような力が身につきます。

★じぶん かだい み かいけつ ほうほう かんが ちから
★自分で課題を見つけ、解決する方法を考える力

★あた じょうほう ぎじゆつ せっきよくてき まな ちから
★新しい情報や技術を、積極的に学ぶ力

★さまざま ひと きょうりよく あた とう だ ちから
★様々な人と協力して、新しいものを生み出す力

★めあてを元に、授業の見通しをもとう！

めあてをいしき ひつよう じょうほう なに かんが と く かだい
めあてを意識し、必要な情報は何か考えよう。そして、どのように取り組めば課題
かいけつ む みとお も 解決に向かっていけるか、見通しを持ちましょう。

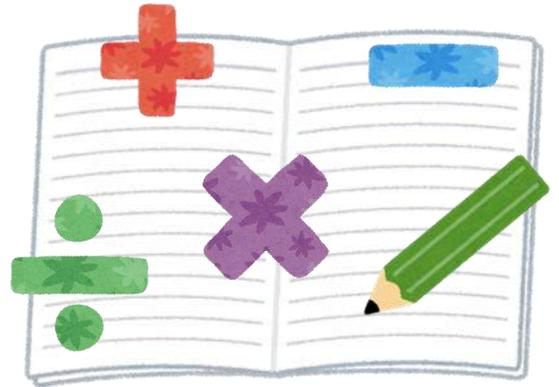
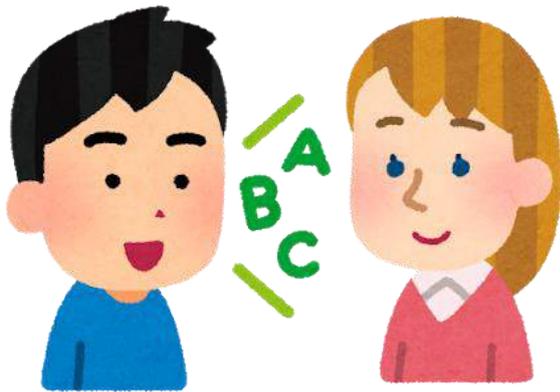
★じぶん もくひょう 自分にあった学び方を選んだり工夫したりしよう！

じゆぎょう だ かだい と く まな じぶん もくひょう あ
授業で出された課題に取り組むときに、どのように学ぶと自分の目標に合っている
かんが と く たと かいけつ 個人で取り組むか、複
すうにん と く えら 数人で取り組むか選んだり、複数人で取り組む際には、誰と取り組むとよいかかんが
りしてみましよう。

★自分の学びを振り返り、次の学びや生活に生かそう！

学習内容を文章や言葉で振り返ったり、確認問題に取り組んだりすることで、授業の内容を確実に理解できるように努めよう。毎回の授業をしっかりと振り返ることで、より授業の内容が定着しますよ。また、前の授業の振り返りから次の授業へつながる部分を見つけ出し、理解を深めよう。

かていがくしゅう てび 家庭学習の手引き



なぜ家庭学習が必要なのだろう

中学校では・・・

- ・ 学習内容が多様になり、**自ら課題を見つけ解決する力**が必要になります。
- ・ **筋道を立てて考える力**や**広い視野で物事を見る力**がさらに必要になります。
- ・ 新しく学習したことを覚えるだけでなく、**生活に関連づけて自分の考えを言えること**が必要になります。
- ・ 自分の特性を理解してくるとともに、**得意な教科・苦手な教科**がはっきりとしてきます。

家庭学習をするとどうなるのだろう

- ☆好きなことが見つかる。
- ☆自分の考えが持てるようになる。
- ☆将来の選択肢が広がる。

家庭学習はどんなことをすれば良いのだろう

- ① 学習内容の定着を図るために、**復習**をしましょう。
- ② 今後の学習内容の見通しを持ち、授業に主体的に取り組むために、**予習**をしましょう。
- ③ 自分の関心のあること、より深く理解したいことについて、**自主学習**をしましょう。
(本や新聞を読んだり、辞典や図鑑を手にとって調べてみたりすると良いですね。)

家庭学習はどのようにすれば良いのだろう

家庭学習は「**習慣化**」することが大切です！ そのために・・・

- ① 何ができるようになればよいか、**目標**を明確に設定しましょう。
- ② 落ち着いて、学習に集中できる**環境とルール**をつくりましょう。
- ③ 「早寝・早起き・朝ごはん」の**基本的な生活習慣**を確立しましょう。
(家の仕事の手伝いをすることも大切です。)

明確な目的と目標の設定

家庭学習の習慣化

学習環境とルールづくり

基本的な生活習慣の確立

かていがくしゅう 家庭学習の6つのポイント

もくてき もくひょう せってい ★目的と目標を設定する

- ・何ができるようになれば良いのか（目的）を決めましょう。
- ・目的の達成に向けて、何をするのか（目標）を決めましょう。

いえ べんきょう じかん き ★家で勉強する時間を決めておく

- ・帰ってから勉強を始める時間を決めましょう。
- ・どれだけの時間勉強するのかを決めましょう。

※「部活動のある日」「部活動のない日」「塾などのある日」「休日」で勉強時間の基本的な計画を作っておくとよいです。

つくえ み まわ かたづ ★机や身の周りのものを片付ける

- ・学習場所には、学習に必要なのないものは置かないようにしましょう。

べんきょう ★「ながら勉強」はしない

- ・テレビを見ながら、スマホ等を使いながら…といった学習のしかたはやめて、学習に集中しましょう。

さいしよ しゅくだい ★最初に「宿題」をする

- ・宿題は後回しにすると、結局できなくなることがあります。苦手な教科でも、必ず帰ったら宿題を最初にすることが大切です。
- ・出た宿題や課題は、提出日までに必ず仕上げましょう。

こた おぼ かんが かた おぼ ★答えを覚えるのではなく、考え方を覚える

- ・なぜそうなるのか、どうしたら解けるのかを理解しましょう。
- ・ワーク等の答え合わせをするときには、解説をよく読みましょう。

こくご 国語

中学校の国語において身につけたい力は、全部で4つです！

具体的には、「話す力・聞く力」「書く力」「読み取る力」「国語の知識」になります！

しかし！！どの力をつけるにしても根幹にある大切な力があります。

それが、語彙力（「どれだけ多くの言葉を知っているか」、「どれだけ言葉を使いこなせるか」に関する能力）です！！

国語という言語教科を学習するにあたって、語彙力は必要不可欠な力になります。

家庭学習をや読書を通して、少しでも多くの言葉に触れ、語彙力を高めていきましょう！！

1 家庭学習について

家庭学習では主に普段学習している単元や作品に関する語彙（言葉・語句）について学習しましょう。

①漢字の学習をする。

音・訓などの読み方はもちろん、筆順・部首などにも注意しながら書けるようにしましょう。

その漢字を使った短文を作るなど、使い方も覚えましょう。

②意味調べをする。

学習する単元や作品の中でわからない言葉があれば、意味調べをしておきましょう。

知っている言葉でも、調べてみると意外と間違っていて使用していることに気づくこともあります。

③音読をする。

特に古典などの作品を学習しているときは、古典特有の言い回しや区切り方があるので、

教科書を音読し、さまざまな感覚（視覚、聴覚）を活かして学習していきましょう。



2 定期テストの対策について

①本文を何度も読む。

テスト当日、本文を一から理解しながら読んでいると、時間が足りなくなってしまうことがあります。

あらかじめ範囲がわかっている本文は何度も読んでおき、どこにどんなことが書いてあるかを理解しておきましょう。

②漢字の練習をする。

繰り返し書いた後、自分でテストをするなど覚えているかどうかの確認をしましょう。何回書くと

よいかは人によって異なります。自分に合った覚え方を見つけましょう。

③知識に関する内容の復習をする。

文法や表現技法、作品・作者、古典に関する知識は、便覧・資料集やワーク、ドリルパークなど

で繰り返し復習をしましょう。

④原稿用紙の使い方を確認する。

段落の作り方や、符号（句読点やかぎなど）の書き方を便覧・資料集で確認しておきましょう。

3 アドバイス

上記で触れたこと以外に自主的に学習しておいた方が良いものを紹介します。

- ①慣用句
- ②熟語（四字熟語・熟語の構成など）
- ③ことわざ
- ④故事成語

この4つは、学習しておかないとなかなか身に付きません。授業や読書をする中で新しい表現に出会った時に、便覧・資料集で確認したり調べたりして語彙を増やしていきましょう。定期テストだけでなく、実力テストや受験などでも問われることが多いので、日常生活の中で意識してこれらの言葉を使い、豊かな表現力を身に付けましょう！！

社 会 科

1 家庭学習

●地理的分野の学習方法

- ・地図を頭に入れることが大切です。世界地理の場合は州ごとに、日本地理の場合は地方ごとに、略地図を描いてみましょう。そこに、地形や気候、盛んな産業、重要語句などを書き込むとより効果的です。



●歴史的分野の学習方法

- ・「時代の流れ」をきちんと頭に入れることが大切です。そのために、歴史年表を作ることが効果的です。授業で習ったところを中心に略年表を作ってみましょう。「いつ、どこで、だれが、何のために、何をしたか」を書き加えると、より時代の流れを整理しやすくなります。余裕があれば、日本と海外の流れをリンクさせるとより効果的です。

●公民的分野の学習方法

- ・公民は現代社会の動きと関わっている部分がとても多い分野です。世の中の動きを知るために、新聞を読んだり、ニュースを見たりする習慣を身につけましょう。議院内閣制や三権分立などは、図式化すると関係性がわかりやすくなり、効果的です。

2 定期テストの勉強のしかた

- ・まずは、重要語句（教科書の太字）を覚えましょう。教科書を繰り返し音読し、何度も書き写しましょう。
- ・教科書や資料集にある資料の読み取りをしましょう。資料からわかることやどのような変化が見られるかなどを中心に読み取りましょう。
- ・学校で使っているワークに繰り返し取り組みましょう。何度も復習することが大切です。

勉強中です



3 アドバイス

- ・自主学習ノートを作り、授業があった日に復習しましょう。
- ・教科書を5～6回、声に出して音読しましょう。
- ・学校で使っているワークに取り組みましょう。
- ・重要語句を文で説明すると、記述問題の練習になります。

理科

1 家庭学習

<その1> その日に学習した教科書の内容を読み返そう。大切な用語だけではなく、写真や図も見返しましょう。

<その2> ノートを読み返そう。大切な用語を別のノートや紙に書いて覚えると効果的です。



気になったことは、コンピュータを活用したり、科学館や博物館を利用して調べられるとさらに良いですね。

2 定期テストの勉強の仕方

宿題として取り組んでいるワークや学習プリントを自分の力でもう一度やり直しましょう。

「大切な用語」は、きちんと書いて覚えましょう。また、漢字で表記してある用語は、正しい漢字で覚えることが大切です。特にワークや学習プリントで間違えた問題は何度も繰り返し解いて覚えるようにしよう。

3 アドバイス

~~(X)~~ ✓ (1) ➡ ✓ ~~(X)~~ ✓✓ (1) ➡ ✓✓ ~~(X)~~
1回目で解けた 1回目で解けなかった 2回目に解けた 2回目も解けなかった 3回目に解けた

解けたら問題番号に「/」を書き、解けなければ「✓」を書いていきます。そうすれば、ぱっと見ただけで、どの問題が解けていて、どの問題が解けていないかわかるようになります。同じ問題集を繰り返し解いていくときは、「/」が入っていない問題だけ解いていきます。

この方法を使えば、一回目はすべての問題を解くことになりますが、二回目以降は解けた問題はとばしていくことになるので、スピードが上がります。わからない所を重点的に解いていくことができます。

理科

1 家庭学習

<その1> その日に学習した教科書の内容を読み返そう。大切な用語だけではなく、写真や図も見返しましょう。

<その2> ノートを読み返そう。大切な用語を別のノートや紙に書いて覚えると効果的です。



気になったことは、コンピュータを活用したり、科学館や博物館を利用して調べられるとさらに良いですね。

2 定期テストの勉強の仕方

宿題として取り組んでいるワークや学習プリントを自分の力でもう一度やり直しましょう。

「大切な用語」は、きちんと書いて覚えましょう。また、漢字で表記してある用語は、正しい漢字で覚えることが大切です。特にワークや学習プリントで間違えた問題は何度も繰り返し解いて覚えるようにしよう。

3 アドバイス

~~(X)~~ ✓ (1) ➡ ✓ ~~(X)~~ ✓✓ (1) ➡ ✓✓ ~~(X)~~
1回目で解けた 1回目で解けなかった 2回目に解けた 2回目も解けなかった 3回目に解けた

解けたら問題番号に「/」を書き、解けなければ「✓」を書いていきます。そうすれば、ぱっと見ただけで、どの問題が解けていて、どの問題が解けていないかわかるようになります。同じ問題集を繰り返し解いていくときは、「/」が入っていない問題だけ解いていきます。

この方法を使えば、一回目はすべての問題を解くことになりますが、二回目以降は解けた問題はとばしていくことになるので、スピードが上がります。わからない所を重点的に解いていくことができます。

えいごか 英語科



1 家庭学習

- 学習する単語・語句がどんどん増えていきます。一度にたくさん覚えようとせずに、毎日の家庭学習や自主学習の中で、確実に覚える工夫をしましょう！！
- 自宅の学習では、chromebook等を活用して、教科書の単語の音声の音声を聞いたり、わからない単語を調べたりすると効果的です。
- 実用英語検定（英検）や TOEIC などにもチャレンジしてみましょう。

2 定期テストの勉強のしかた

まずは基本文や新出語句・文法を覚えよう。それができたら、学んだことを使って場面設定や状況に応じた表現ができるような問題に取り組みましょう。

3 アドバイス

学年別アドバイス

1年 小学校で学習したことを中学校でも活用できるようにしましょう。そしてどんどん声に出して英語を読むようにしましょう。

2年 復習が大事です。今までに学習したことで分からないところを発見して、早めに克服しておきましょう。

3年 受験に向けて基礎基本を確認し、応用問題にもどんどん取り組みましょう。

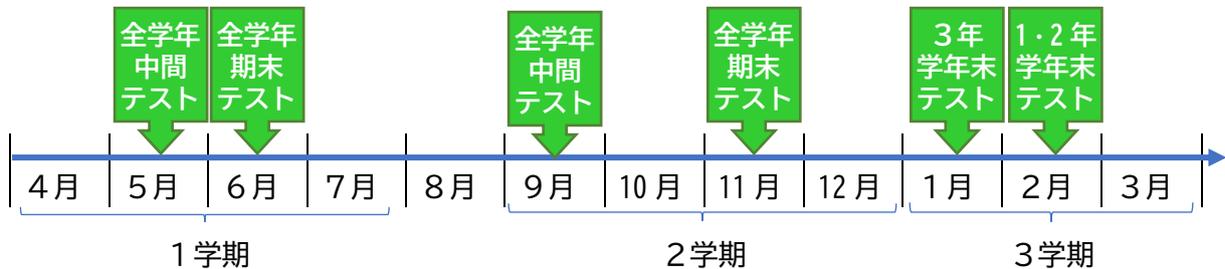
☆たくさんの英語に触れ、「聞く」「読む」「話す」「書く」の力を伸ばしましょう！



定期テストに向けた勉強のしかた

定期テストとは

- ・学習内容の定着状況を確認するために行うテストのこと。
- ・神戸中学校では、年間5回行う。

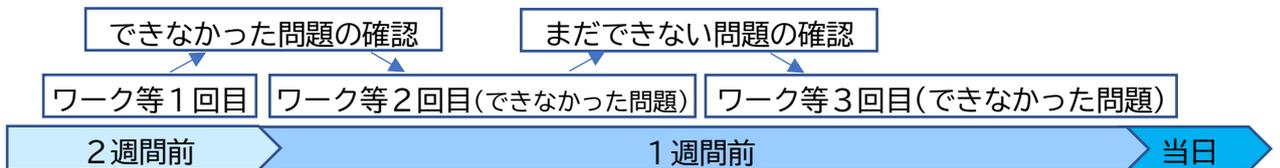


- ・中間テストは5教科(国・社・数・理・英)、期末テスト・学年末テストは全教科で行う。
- ・それぞれの定期テストは出題範囲が広いため、効率よく勉強をする必要がある。

定期テストに向けた勉強のしかた

① 計画的に勉強しよう

- ・およそ2週間前から定期テストに向けた勉強を始めよう。
- ・テスト1週間前にはテスト範囲の発表があり、部活動が原則停止となります。さらに集中してテスト勉強に取り組もう。



- ・テスト直前に必死になるのではなく、毎日の授業に集中すること、毎日の家庭学習(予習・復習・自主学習)をコツコツ積み上げることが、最もよいテスト対策になります。

② 教科書、ノート、ワークやプリントなどを使って勉強しよう

- ・教科書を何度も繰り返し読もう。
- ・ノートやワークシートを見直し、学習内容の重要なポイントを確認しよう。
- ・新出漢字や新出単語、重要語句などは、何度も書いたり、声に出したりして覚えよう。
- ・ワークやプリントの問題は繰り返し解こう。一度解いてわからなかった問題はチェックしておき、二度、三度とわかるようになるまで繰り返し解き直そう。

③ わからないことは質問しよう

- ・わからないことがあれば、教科担当の先生に質問しよう。
- ・定期テスト直前には、教科担当の先生に質問ができる「放課後学習」が開かれます。積極的に活用しよう。

試験の受け方

- 1 机の落書きなどを事前に消しておく。
- 2 座席は出席番号順。
- 3 試験中は机の中には何も入れない。
- 4 筆記用具など必要な物のみ机の上に。神中バッグなどは全てロッカーの中。
鉛筆、シャープペンシル、消しゴム、定規などのみ机上。
下敷きは不要。筆箱も不要。
- 5 休憩はトイレ休憩のみ。予鈴で着席していること。
- 6 試験監督の先生の指示で、室長は始まりの号令をかける。
- 7 試験監督の先生が問題用紙などを配付する間、私語をしない。
問題用紙は裏面を上にして配布するので、指示があるまで表面を見ない。
両面印刷してある問題用紙は、静かに机上に。
- 8 試験監督の先生の合図で問題用紙・答案用紙を表面にして、試験を開始する。
- 9 最初に問題用紙が指示通りに印刷されているか確認する。
その後、答案用紙に組、席、名前を忘れずに書く。
- 10 試験中は、私語は一切禁止。
試験中とは、試験監督の先生が教室に行ってから、答案用紙を集めて、室長が
終わりの号令をかけ終わるまでの間のことをいう。
- 11 消しゴム等を落とした場合、勝手に拾わずに挙手して試験監督の先生に知らせる。
- 12 早く問題が終わった人は、しっかりと見直しをする。
自分の答案用紙は他から見えないようにする。
- 13 試験終了の合図があったら、速やかに筆記用具を置く。
- 14 各列の最後尾の人は、答案用紙を出席順になるように集める。
各列の分がうまく出席順になるようにして、試験監督の先生に出す。
この際、手際よく集める。他の生徒は私語をしない。席を立たない。
- 15 試験監督の先生の指示で、室長は終わりの号令をかける。